

奈良県指定文化財調査票

調査日	2021 年	7 月	21 日	記入者	西田裕美
調査者名	小倉	仲谷	西田	安川	

文化財名	西大寺奥院納骨堂及び納入資料				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input checked="" type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	2001年(平成13年)3月30日				
所在地	奈良市西大寺芝町1丁目1の5、同市西大寺野神町1丁目6の10、				
所有者 管理者	西大寺				
員数	1棟 一括 (『奈良県指定文化財 第42集』に納入資料の合計は2001年1月現在で2930点と記載されている)				
時代区分					
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	無し				
公開	納骨堂は常時公開(内部は不可)、納入資料は西大寺本坊にて保管(非公開)				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 (堂自体が傾いているので数本の木材でつかえ棒をしている。)				
当面の課題	骨堂全体が北に傾いているので、周囲に2mほどの高さの黄色い安全柵で囲まれていた。早急に対策をたてて保存の見直しをもつ必要がある。案内板、説明板は無く、何の建物なのかわかる表示も一切ない。表示だけでもつけてはどうか。				
今後の課題	写真と説明で冊子にまとめた県教育委員会発行の『奈良県指定文化財 平成12年度版 第42集』の説明には、「西大寺に関わる中世以降の納骨慣行を知るうえで貴重な遺構として保存顕彰をはかる必要がある」と記載されている。倒壊しないようにすることと、知らせるための説明板も必要だ。				
その他 (由緒など)	納骨堂は一間四方。周囲は五輪塔形の板塔婆を打ち付けて壁としている。内部に打ち付けられた五輪塔形納骨器に永正4年(1507)の銘がある。嘉暦4年(1329)の記録に「骨堂」の記述があるため鎌倉時代末に遡る可能性もある。叡尊没後まもなく墓塔のそばに設けられ、近世には周辺村落の納骨堂としても機能したと考えられる。現在も毎年西大寺光明真言会の結願後に、その年没した僧の塔婆を打ち付ける。(冊子参照)				
コメント	文化財名は、県の一覧では「西大寺奥院納骨堂及び納入資料」となっている。一方、『奈良県指定文化財 第42集』では「西大寺奥院骨堂及び納入資料」と書かれ、「こつんどう」とかながふってあり、文面も骨堂で統一されている。建てられたのが鎌倉時代の可能性もある貴重な民俗文化財が、指定から約20年経過し、つかえ棒だけの対処措置で、説明板もない状態が続いている。奥院および西大寺本坊で「文化庁に建て替えの許可は得ている」と伺った。元興寺文化財研究所でも調査されているようだ。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2021 年	7 月	21 日	記入者	西田裕美	
調査者名	小倉	仲谷	西田	安川		

文化財名	西大寺奥院納骨堂及び納入資料
------	----------------

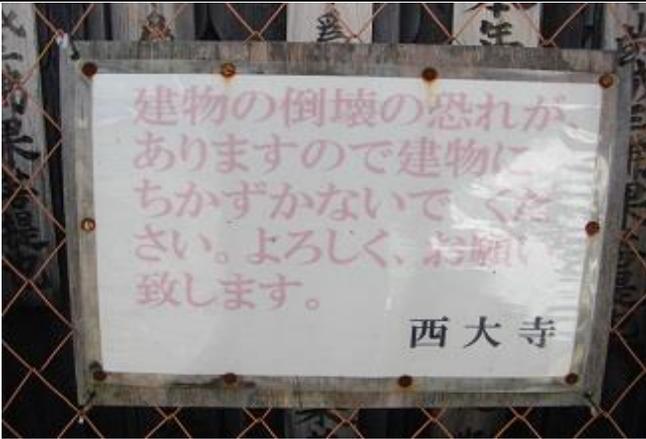
安全柵で囲まれた納骨堂(南西方向より)



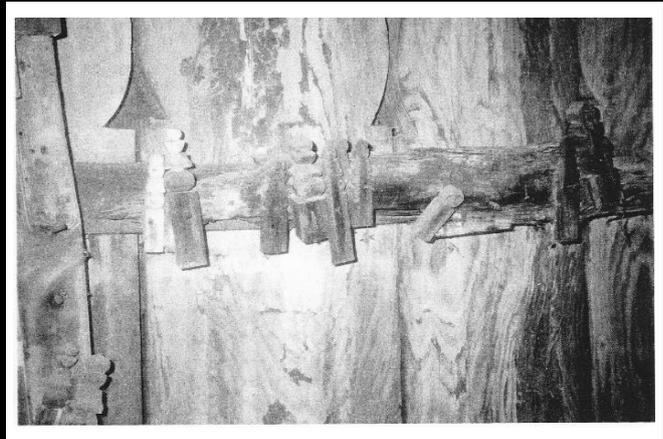
北面に傾いているため、支えているつかえ棒



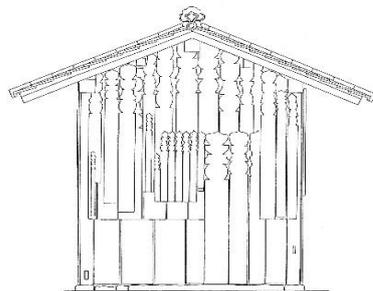
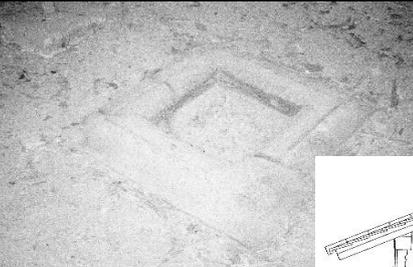
安全柵に貼られた、建物倒壊の恐れを示す表示



内部の納骨五輪塔打ち付け状況(県教委冊子より)



内部石台・東立面図(県教委冊子より)



納入資料の一部の竹製納骨器(県教委冊子より)

